

2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年11月12日

上場会社名 株式会社スパンクリートコーポレーション 上場取引所 東  
 コード番号 5277 URL http://www.spancretecorp.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村山 典子  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 大友 和俊 TEL 03-5689-6311  
 半期報告書提出予定日 2024年11月12日 配当支払開始予定日 -  
 決算補足説明資料作成の有無：無  
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	726	-	△139	-	△133	-	△156	-
2024年3月期中間期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	△21.10	-
2024年3月期中間期	-	-

- (注) 1. 当社は、2025年3月期第1四半期会計期間より非連結決算へ移行しております。そのため、2024年3月期第2四半期（中間期）の経営成績（累計）及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。  
 2. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、1株当たり中間純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	6,408	5,306	82.8
2024年3月期	6,652	5,473	82.3

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 5,306百万円 2024年3月期 5,473百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	-	-	0.00	0.00
2025年3月期	-	-	-	-	-
2025年3月期（予想）	-	-	-	-	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,353	△15.5	△493	-	△490	-	△539	-	△72.51

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 当社は2025年3月期第1四半期会計期間より非連結決算に移行したことに伴い、連結業績予想を取りやめております。連結子会社であった岩瀬プレキャスト株式会社の業績は当初の業績予想に与える影響は軽微であります。そのため、業績予想につきましては、2024年5月13日に公表いたしました連結業績予想数値を据え置き、個別業績予想としております。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注)詳細は、添付資料7ページ「2. 中間財務諸表及び主な注記(4) 中間財務諸表に関する注記事項(中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期中間期	9,332,400株	2024年3月期	9,332,400株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	1,907,761株	2024年3月期	1,907,761株
③ 期中平均株式数(中間期)	2025年3月期中間期	7,424,639株	2024年3月期中間期	7,438,215株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 中間財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 中間貸借対照表 .....	3
(2) 中間損益計算書 .....	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項 .....	7
(中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記) .....	7
(中間損益計算書に関する注記) .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
3. その他 .....	9
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当社は、当社の連結子会社であった岩瀬プレキャスト株式会社が2024年5月15日付で破産手続開始決定がなされたことに伴い、当中間会計期間より非連結決算に移行いたしました。そのため、従来連結で行っておいりました開示を個別開示に変更いたしました。なお、当中間会計期間は非連結決算初年度にあたるため、前年同期の数値及びこれに係る増減率等の比較分析は行っておりません。また、当中間会計期間より、同社が営む「プレキャスト事業」からの撤退に伴い、同事業の報告セグメントを廃止し、「スパンクリート事業」及び「不動産事業」の2事業に報告セグメントを変更しております。

当中間会計期間における世界GDPは中国経済が消費持ち直しに伴い回復傾向と見られていますが、不動産不況が影響し回復力は弱いと見られています。また、米国では今後も消費と投資が底堅く推移を続け、回復が続くものと思われまます。わが国では輸入物価の落ち着きに伴い、回復傾向が続くものと思われまますが実質所得低下の影響が懸念されまます。

この間、建設市場におきまましては、住宅着工件数が前年度比減の傾向ですが公共建設投資は前年度比増の傾向となっております。しかしながら、資材と労務需給不足等への懸念が2024年問題と合わせ一段と高まっております。当社におきましても、主たる原材料のPC鋼線の価格上昇幅は一昨年には及んでいませんが値上げ自体は行われ、加えてセメントの今後の値上げも確定の為、価格転嫁の交渉が継続して必要になっております。また、当期は期首の出荷予測数量が少ない事に加え、前期同様に受注案件の工程遅延が発生しており、厳しい状況が続いております。

このような状況下で当社の当中間会計期間の業績は、売上高726百万円、営業損失139百万円、経常損失133百万円、中間純損失156百万円となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### ①スパンクリート事業

当事業は、第1四半期会計期間に続き出荷数量の低迷が続いており、販売金額・数量共に当初見込んでいた数量に未達でありました。その結果、売上高605百万円、セグメント損失192百万円となりました。

#### ②不動産事業

当事業は、賃貸用不動産が高稼働を維持し、安定的に収益を確保いたしました。この結果、売上高120百万円、セグメント利益53百万円となりました。

### (2) 当中間期の財政状態の概況

#### (資産、負債及び純資産の状況)

当中間会計期間末における流動資産は現金及び預金が増加したものの、売掛金の減少により、前事業年度末に比べ202百万円減少し、2,624百万円となりました。

固定資産は無形固定資産が増加したものの、建物及び投資有価証券の減少により、前事業年度末に比べ41百万円減少し、3,783百万円となりました。

この結果、総資産は6,408百万円となり、前事業年度末に比べ244百万円減少いたしました。

当中間会計期間末における流動負債は流動負債のその他が増加したものの、買掛金及び未払費用の減少により、前事業年度末に比べ74百万円減少し、653百万円となりました。

固定負債は長期預り敷金が増加したものの、繰延税金負債の減少により、前事業年度末に比べ2百万円減少し、448百万円となりました。

この結果、負債は1,102百万円となり、前事業年度末に比べ76百万円減少いたしました。

当中間会計期間末における純資産は中間純損失計上による利益剰余金の減少により、前事業年度末に比べ167百万円減少し、5,306百万円となりました。

この結果、自己資本比率は82.8%（前事業年度末は82.3%）となりました。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績につきましては、2024年5月13日に公表しました業績予想数値から変更ありません。

なお、2025年3月期の業績予想につきましては、現時点で当社が入手可能な情報に基づき業績予想を算定しております。上記の予想は今後の様々な要因により大きく変動する可能性があり、業績に影響を及ぼす事象が生じた場合には速やかに公表いたします。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当中間会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,000,943	2,060,949
受取手形	—	4,592
電子記録債権	—	1,606
売掛金	650,065	406,196
商品及び製品	61,298	58,096
仕掛品	289	950
原材料及び貯蔵品	65,815	57,983
関係会社短期貸付金	36,000	—
その他	68,017	33,957
貸倒引当金	△55,321	—
流動資産合計	2,827,109	2,624,332
固定資産		
有形固定資産		
建物	847,289	822,076
機械及び装置	23,723	21,088
土地	2,637,802	2,635,774
その他	37,053	34,122
有形固定資産合計	3,545,868	3,513,062
無形固定資産		
無形固定資産	11,695	14,491
投資その他の資産		
投資有価証券	258,924	242,784
破産更生債権等	—	65,070
その他	8,724	8,503
貸倒引当金	—	△60,070
投資その他の資産合計	267,648	256,287
固定資産合計	3,825,212	3,783,841
資産合計	6,652,322	6,408,173

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当中間会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	60,102	22,703
工事未払金	35,576	25,854
短期借入金	500,000	500,000
リース債務	1,846	1,846
未払金	16,529	11,504
未払費用	60,313	37,955
未成工事受入金	2,838	398
未払法人税等	5,666	2,833
賞与引当金	18,040	18,860
受注損失引当金	5,230	—
災害損失引当金	—	1,894
その他	21,390	29,673
流動負債合計	727,534	653,523
固定負債		
リース債務	2,000	1,077
繰延税金負債	76,936	70,903
再評価に係る繰延税金負債	216,680	216,680
長期預り敷金	155,821	159,872
固定負債合計	451,438	448,533
負債合計	1,178,973	1,102,057
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金		
資本準備金	1,061,313	1,061,313
その他資本剰余金	4,647,977	4,647,977
資本剰余金合計	5,709,291	5,709,291
利益剰余金		
その他利益剰余金		
買換資産圧縮積立金	39,000	38,150
繰越利益剰余金	△299,072	△454,897
利益剰余金合計	△260,072	△416,747
自己株式	△453,540	△453,540
株主資本合計	5,095,678	4,939,003
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	142,213	131,655
土地再評価差額金	235,457	235,457
評価・換算差額等合計	377,670	367,112
純資産合計	5,473,349	5,306,116
負債純資産合計	6,652,322	6,408,173

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	726,170
売上原価	678,384
売上総利益	47,785
販売費及び一般管理費	186,813
営業損失 (△)	△139,028
営業外収益	
受取利息	850
受取配当金	3,304
その他	4,623
営業外収益合計	8,777
営業外費用	
支払利息	1,936
貸倒引当金繰入額	1,539
その他	19
営業外費用合計	3,495
経常損失 (△)	△133,746
特別損失	
減損損失	※1 16,205
災害による損失	※2 2,934
その他	1,406
特別損失合計	20,546
税引前中間純損失 (△)	△154,292
法人税、住民税及び事業税	2,833
法人税等調整額	△449
法人税等合計	2,383
中間純損失 (△)	△156,675

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前中間純損失 (△)	△154,292
減価償却費	30,178
減損損失	16,205
賞与引当金の増減額 (△は減少)	820
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	△5,230
受取利息及び受取配当金	△4,154
支払利息	1,936
有形固定資産売却損益 (△は益)	539
売上債権の増減額 (△は増加)	239,211
棚卸資産の増減額 (△は増加)	14,608
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	△2,439
工事未払金の増減額 (△は減少)	△9,722
仕入債務の増減額 (△は減少)	△37,399
その他	△13,281
小計	76,980
利息及び配当金の受取額	4,154
利息の支払額	△2,320
法人税等の支払額	△5,666
法人税等の還付額	597
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>73,745</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△13,487
有形固定資産の売却による収入	4,051
無形固定資産の取得による支出	△3,807
長期貸付金の回収による収入	145
長期預り敷金の返還による支出	△4,131
長期預り敷金の受入による収入	4,357
その他	57
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△12,815</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
リース債務の返済による支出	△923
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△923</b>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	60,005
現金及び現金同等物の期首残高	2,000,943
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,060,949

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(中間損益計算書に関する注記)

※1 減損損失

当中間会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

当社は、以下の資産について減損損失を計上しました。

場所	用途	減損損失	
		種類	金額 (千円)
宇都宮工場 (栃木県宇都宮市)	スパンクリート事業	機械及び装置	15,927
		その他 (工具、器具及び備品)	277
合計			16,205

当社は、原則として事業用資産については事業部門を基準としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

上記の資産については、継続的に営業損失を計上していることから、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は、正味売却価額又は使用価値により測定しており、正味売却価額は不動産鑑定評価額を基準に評価し、使用価値は将来キャッシュ・フローが見込めないため零として評価しております。

※2 災害による損失

当中間会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

2024年7月に東京、埼玉で発生した記録的短時間大雨により、当社が所有する賃貸用不動産(東京都北区)において、擁壁崩壊事故が発生し、当該事故による損害及び見積額を特別損失に計上しました。

なお、上記には、災害損失引当金繰入額1,894千円を含んでおります。

また、当該事故による損害については、保険を付保しておりますが、現時点で当該損害に係る保険金の受取金額等は確定していないため、当中間会計期間においては、受取保険金は計上しておりません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当中間会計期間 (自2024年4月1日 至2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			中間損益 計算書計上額 (注) 2
	スパンクリート 事業	不動産事業	計	
売上高				
一時点で移転される財	599,763	—	599,763	599,763
一定の期間にわたり移転される財	6,100	—	6,100	6,100
顧客との契約から生じる収益	605,863	—	605,863	605,863
その他の収益 (注) 1	—	120,306	120,306	120,306
外部顧客への売上高	605,863	120,306	726,170	726,170
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	605,863	120,306	726,170	726,170
セグメント利益又は損失 (△)	△192,352	53,324	△139,028	△139,028

(注) 1. その他の収益は、リース取引に関する会計基準に基づく不動産の賃貸収入等であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、中間損益計算書の営業損失 (△) と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「スパンクリート事業」セグメントにおいて、継続的に営業損失を計上していることから、将来の回収可能性を検討した結果、当中間会計期間末においてスパンクリート事業に係る固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額することが適切であると判断し、当該減少額を減損損失として計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当中間会計期間においては16,205千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの廃止)

当社の連結子会社であった岩瀬プレキャスト株式会社が2024年5月15日付で破産手続開始決定がなされたことに伴い、同社が営む「プレキャスト事業」から撤退をしております。これにより、「プレキャスト事業」の報告セグメントを廃止し、「スパンクリート事業」及び「不動産事業」を報告セグメントとしております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、継続的な売上高の減少及び前事業年度まで5期連続して営業損失を計上し、当中間会計期間においても営業損失を計上していることから、継続企業の前提に関する注記を開示するまでに至りませんが、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しているものと認識しております。

このような中、当社は、営業利益の黒字化に向けて、継続して経費の見直し、最適化を進める一方で依然として不透明な経営環境の中で安定的・継続的に利益を創造する体制を構築すること、コスト上昇に対する価格転嫁及び製品の付加価値を総合的に高めていくことで、こうした状況の早期解消又は改善を目指しております。

セグメント別の具体的な取組みは次のとおりであります。

#### <スパンクリート事業>

- ① 総製造原価上昇に対応した販売価格の適正改定
- ② 新たな顧客獲得を目指し、引き続き大型倉庫、超高層マンション、競技場の拡販に注力し、工場の操業度及び利益の確保に努める
- ③ 改良新製品研究開発への注力
- ④ 生産コストダウンへ向けた活動の継続と新規テーマの探索
- ⑤ 生産数量の増減に備えた協力会社との連携推進
- ⑥ 相対的に利益率の高い製品の販売拡大
- ⑦ サステナビリティの一環として、カーボンニュートラルを実現する製品開発の推進

#### <不動産事業>

- ① 所有する賃貸物件の高稼働の確保

なお、当社は当中間会計期間末において、現金及び預金2,060百万円を保有しており、当面の経営に支障をきたさない資金を確保しております。

以上より、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。